

# Tailord Suit の構成に関する研究

小倉 春・小堀明代

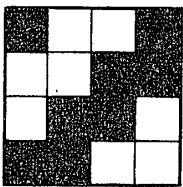
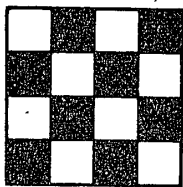
## I 緒 言

テーラードされた衣服は総て単純化された各部の面と線が常に美しい釣合を持たなければならない。それには合理的な裁断と計算された運動量の処理に加えてアイロンの技術による癖取りが必要である。平面作図によって裁断されたままの布でテーラードスーツを組立てた場合当然体型の曲線部に皺が出来る。これをアイロンに依て完全に処理した時始めて布は体型なりの線にテーラードされる。本研究に於ては“癖取り”の伸しについてのみ実験を行ない報告する。紀要1 (p.57) に於てはB布を用いてパンタロンを作成し、伸しの位置及び変形量について検討し報告したが本研究では、異質の布“A布”を使用し、A, B, 布の伸しによる変形量の差、仕立上りの結果クリーニング後におこる癖取り部の変化等につき観察し報告をする。又A布でテーラードジャケットを構成し、曲線部の伸しについて検討する。

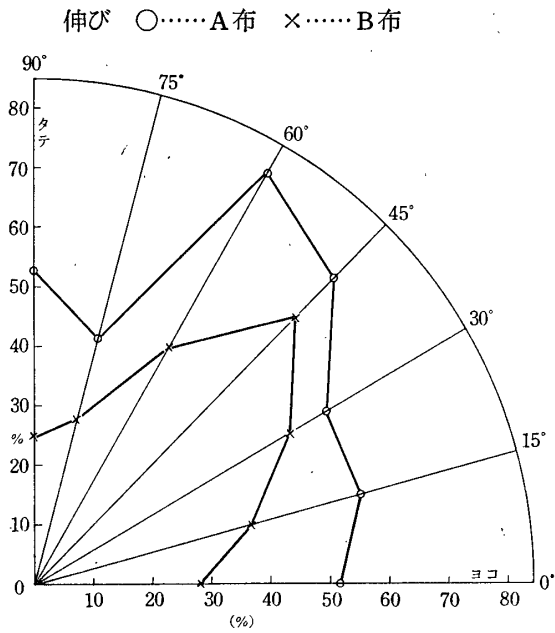
## II 試料及び実験と実習方法

### 1) 試料

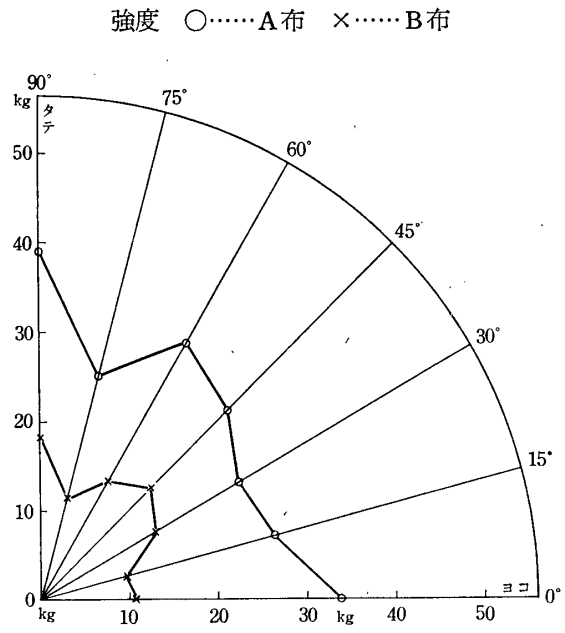
第1表 試 料

	A 布	B 布
組 織	綾織 	平織 
素 材	経 糸—羊 毛 緯 糸—羊 毛	経 糸—羊 毛 緯 糸—羊 毛
番 手	経 糸—2/42 S 緯 糸—2/42 S	経 糸—1/6 S 緯 糸—1/6 S
よ り 数	経 糸—567 t/m 緯 糸—566 t/m	経 糸—244 t/m 緯 糸—356 t/m
密 度	経 糸—27/cm 緯 糸—30/cm	経 糸—7.4/cm 緯 糸—6.6/cm
厚 さ	0.572 mm	0.937 mm
重 量	25.0 mg/cm <sup>2</sup>	23.7 mg/cm <sup>2</sup>

本研に使用した布をA布, 前報の布をB布とする。〔第1表〕はA, B布の性格を示す。1図, 2図の強伸度の実験では, A布の方がB布より強伸度共に高い。



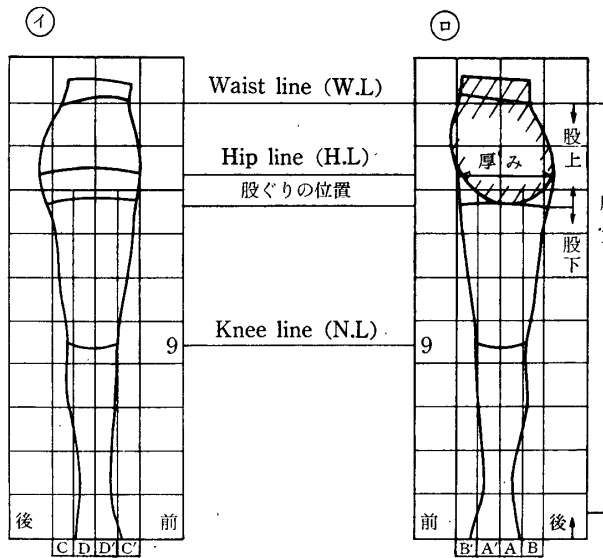
第1図



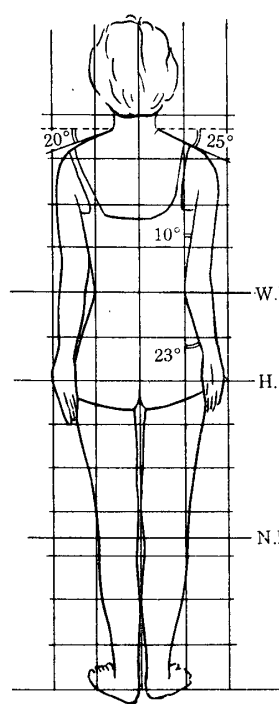
第2図

2) 構成実習

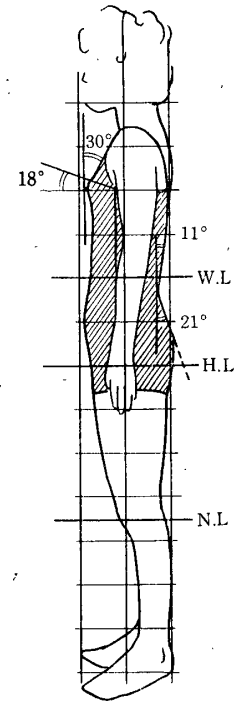
イ) 地の目通り5c間隔の線を縦横にいれる。経糸緯糸が直角になるように地直しする。



第3図



第4図



第5図

ロ) 地の目に正しく型紙を置き裁断する。

ハ) 被験者の採寸及びシルエットによる観察。(3, 4, 5図参照) シルエットに依り脚部ボディの側面, 側断面 及び被験者の体型を観察する。脚部では H. Lから股ぐり線までの強い曲線, 股下の部分, 上体では W. Lを中心にした曲線部に, 布の無理皺が出来る。これ等の位置にくせとりをしなければならない。

採寸。第2表は実測値とシルエット方式による読取採寸値である。体型は後傾体である。

(被験者は前報に同じ)

第2表 採寸

	胸廻り	胴廻り	腰廻り	背丈	総丈	曲率	肩落度
実測値	74	58	80.3	36	125		
シルエット 読取採寸値	74.1	57.0	80.8	36	125	18°	右 20° 左 25°

脚部

	股上	股下	厚み	N. L脚廻り 20上	N. Lより 10上	N. L脚廻り	脇丈
実測値	25	60	23	42	40.0	31	84
シルエット 読取採寸値	25	60	21	41.0	39.3	31.4	84

ニ) 霧を吹きアイロンで, パンタロンのクリーズ線が曲線状になるまで(前報) ジャケットは脇線及び切り替え部の曲線が直線状になるまで伸す。何れも伸しが固定するまで何回もくせとりをする。

ホ) A布による a) パンタロン b) ジャケットを構成する。パンタロンの型紙は前報のものを使用し仮縫で補正する。ジャケットの型紙は31図に示す。

6, 7図は, A布パンタロンの伸し前の後身, 8図は伸し前の前身頃である。9, 10図は伸し以後の後身頃, 11図は伸した以後の前身頃で, 各部の変形状態を示す。

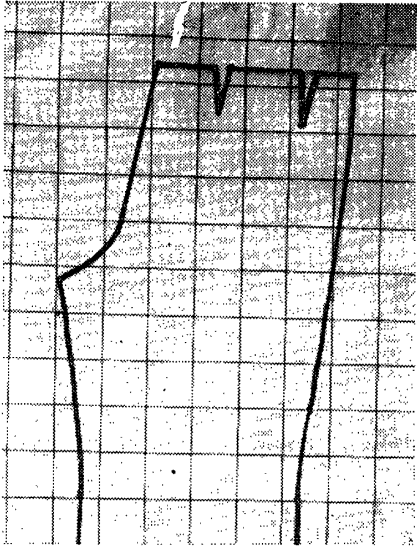
19図, 20図はA布パンタロン32, 33, 34, 35図はジャケットの ↗ 方向 ↘ 方向に対する伸びを計り変形量を数字で表わす。

ヘ) 構成されたパンタロンをドライクリーニングし洗たく後の変形を測定する。

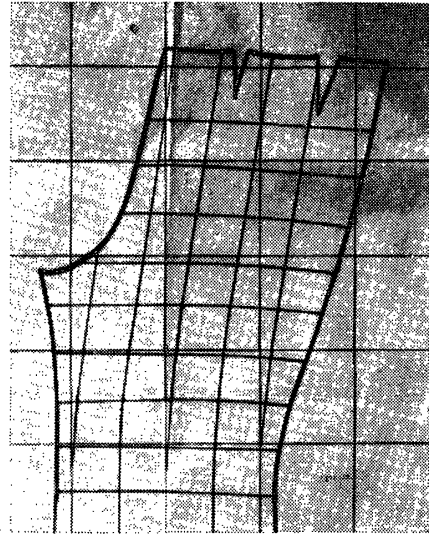
### Ⅲ 結果と考察

a) パンタロンについて

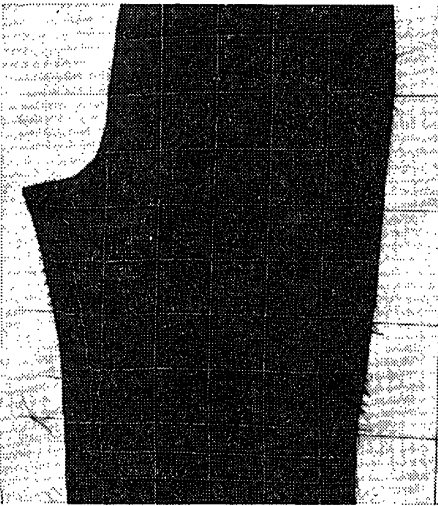
12, 13, 14図は癖取りをしないで組立てたA布のパンタロンである。体型の曲線部に無理じわが目立つ。15, 16, 17図は完全にテーラードされた仕立上りである。18図はB布パンタロンの仕立上りであるが, A布の方が比較すると美しくテーラードされている。



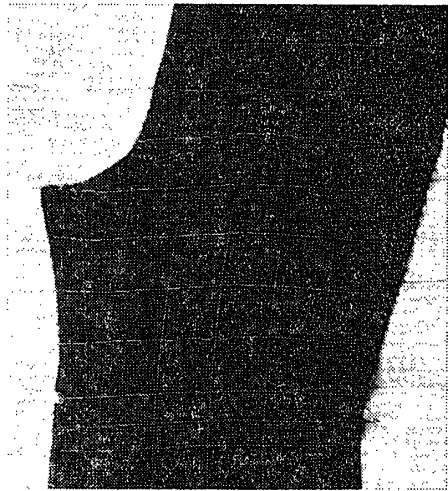
第6图



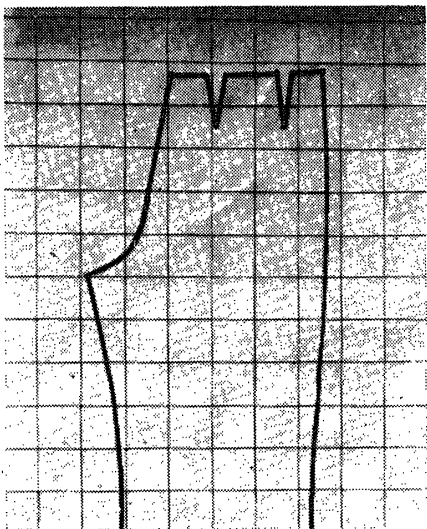
第9图



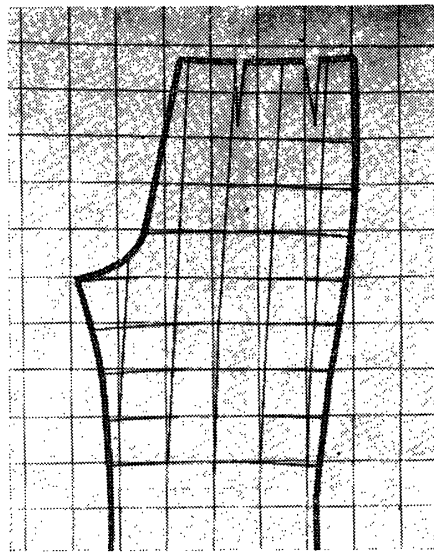
第7图



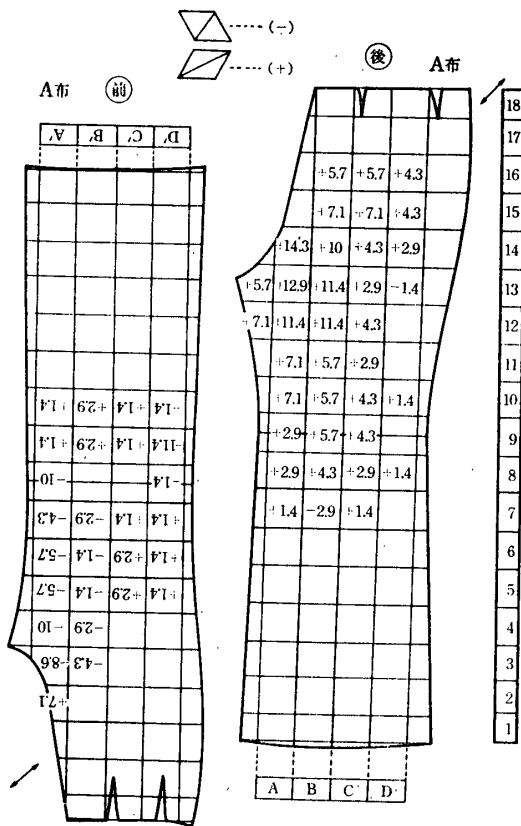
第10图



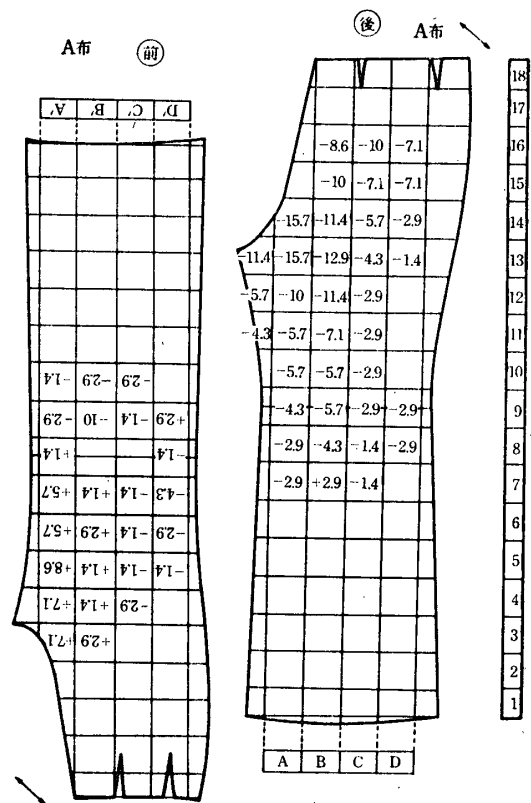
第8图



第11图



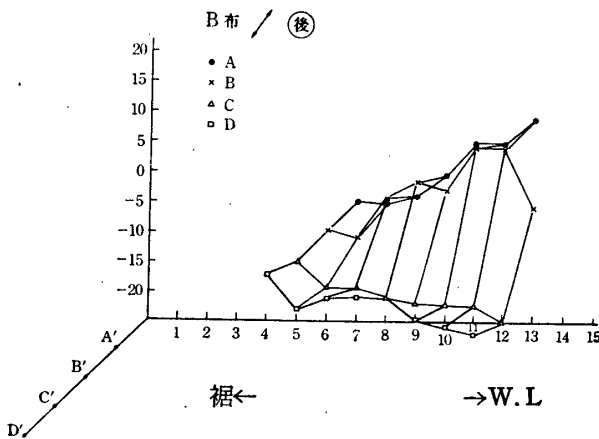
第19図



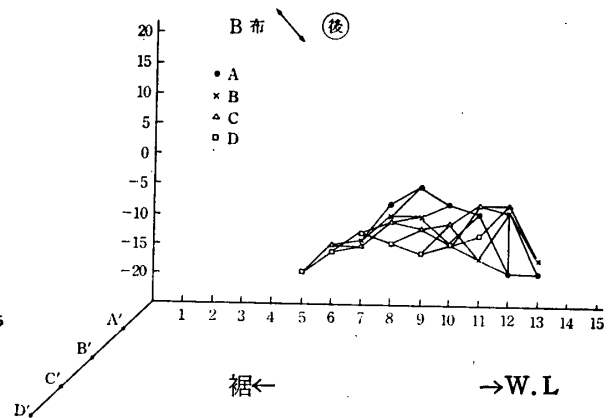
第20図

19図、20図前後身頃の図を、横 ABCD・A'B'C'D'。縦 1~18 に区切り、各部分の変形量を測定する。21図~30図のグラフに示す。尚クリーニング後に於ける変形量の崩れを観察する。グラフによるとA布は伸びの状態が平均して観られ、形よくテーラードされる事が解る。B布は22図では伸びの状態が平均されていない事、21図では、AB, CD の部分が、たがいに反対方向に変形していることなどが観察され、癖取りしにくい布であることが想像される。

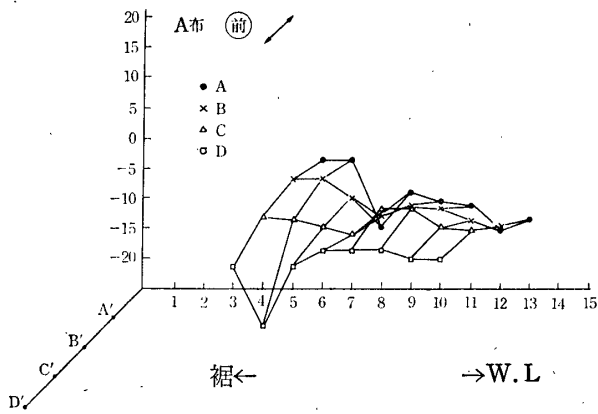
クリーニングの結果は、予想していたような変化はなく、クリーニング前の形はあまり崩されなかった。これは25図A布 ↗ (後)。27図洗たく後のA布 ↗ (後)。26図A布 ↘ (後)28図



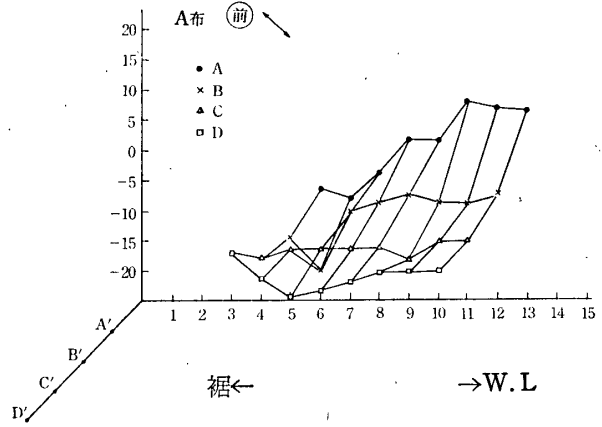
第21図



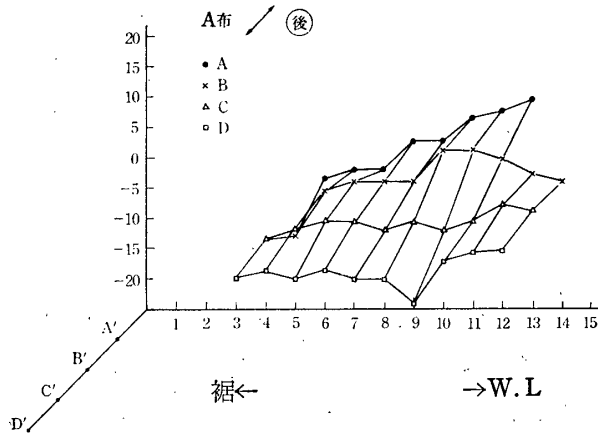
第22図



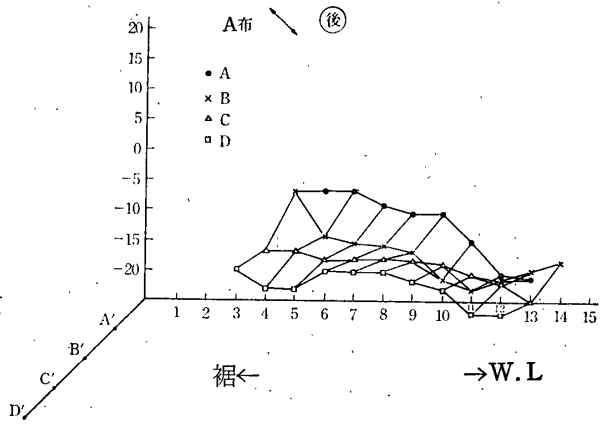
第23図



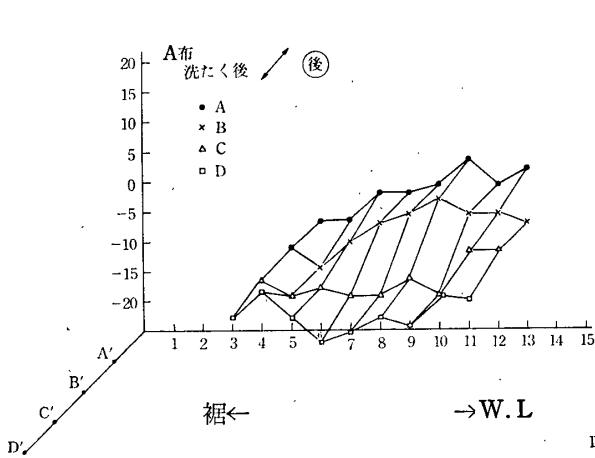
第24図



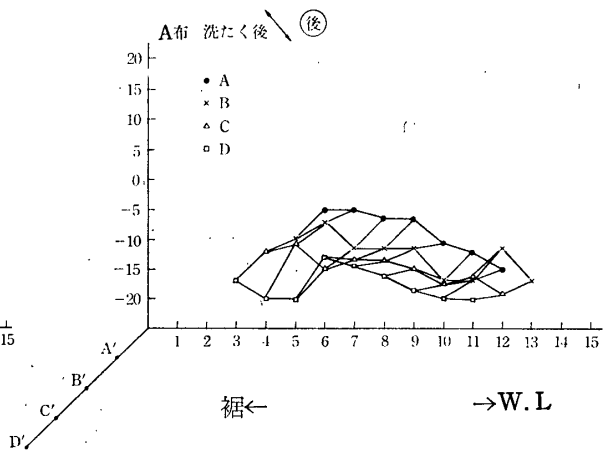
第25図



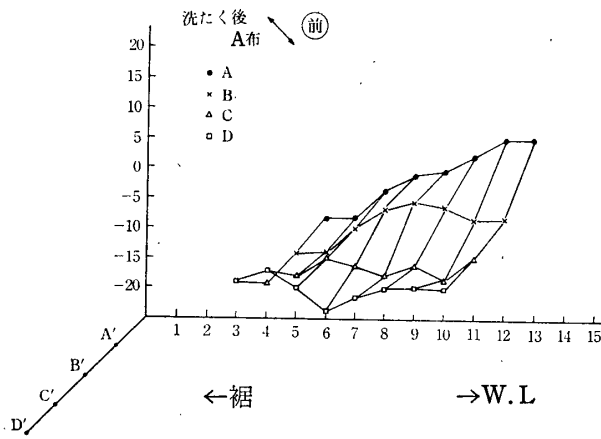
第26図



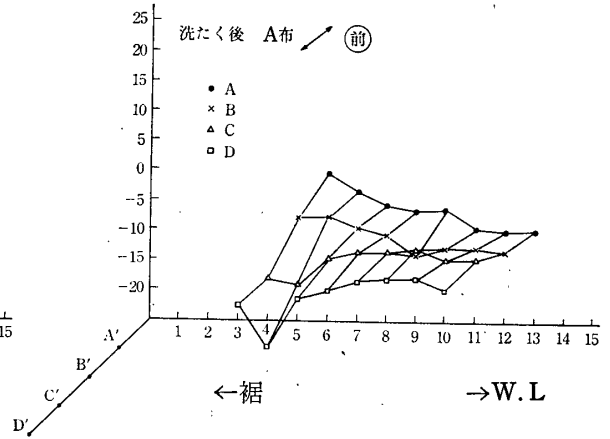
第27図



第28図



第29図



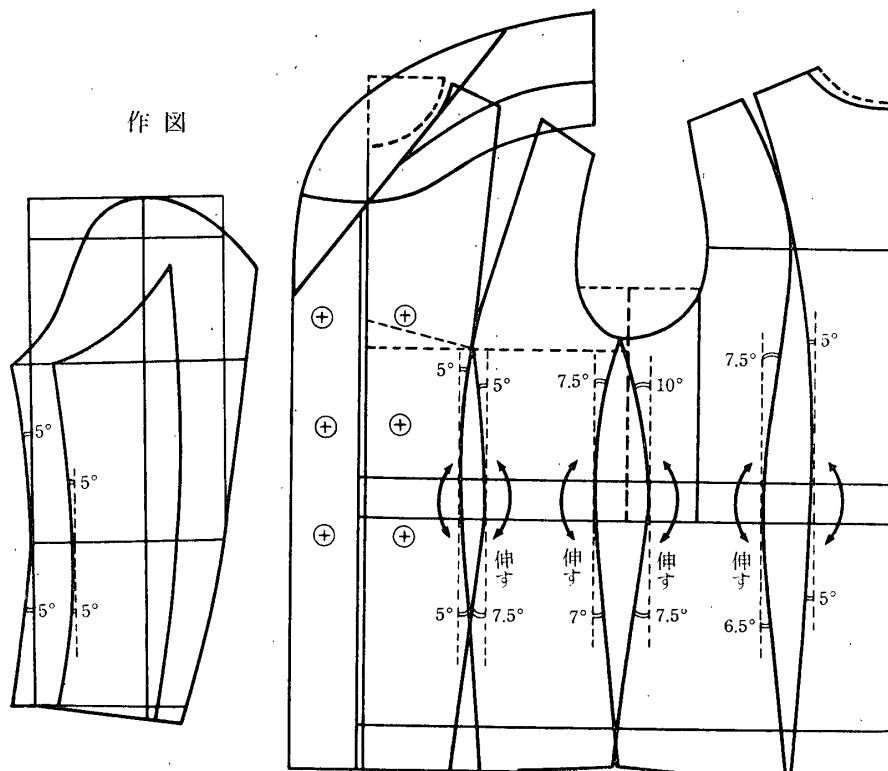
第30図

洗たく後A布 ↘ (後)。23図A布 ↗ (前) 29図洗たく後A布 ↗ (前)。24図A布 ↘ (前)。  
30図洗たく後A布 ↘ (前) を観察することによって理解することが出来る。

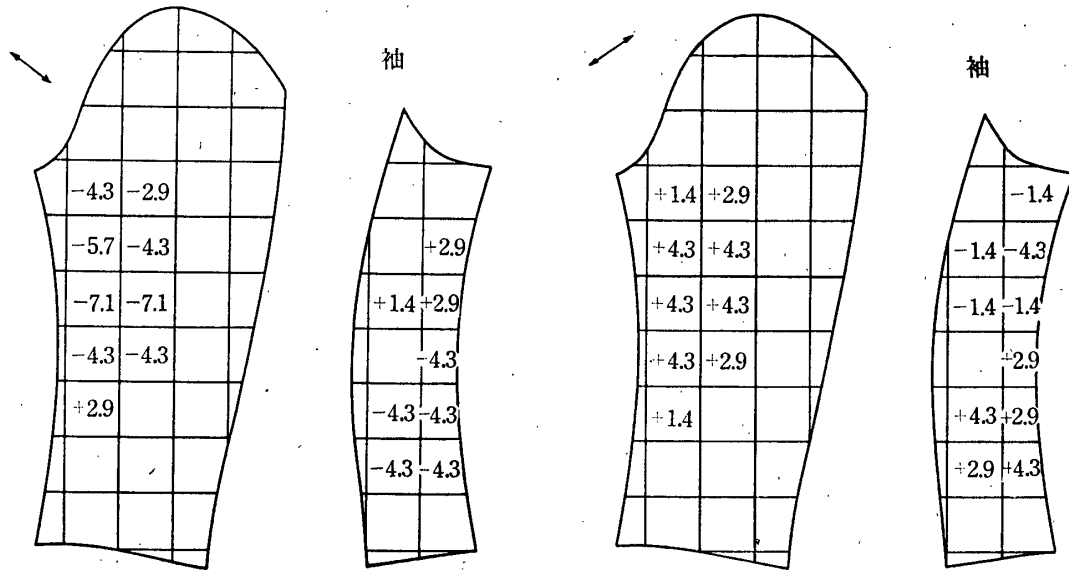
b) ジャケットについて

ジャケットの脇と二枚袖の袖下の曲線はパンツロンの股下のように複雑でないのと伸しの方法が異なっているためそれ程強い伸しをしなくとも、美しい結果が得られた。即ち32図~35図に示された身頃及び袖の伸しによる変形量の最大値をみると、パンツロンの股下部の伸し分15.7%より少量の7.1%という数値が表わされている。

36, 37, 38図は癖を取らないで着用したジャケット, 39, 40, 41図は完全にくせを取り構成



第31図

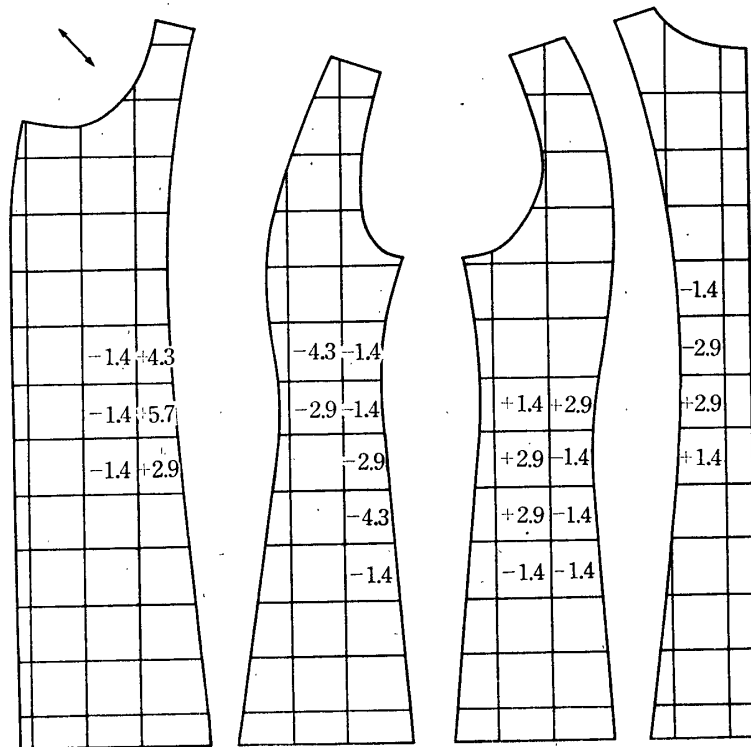


第32図

第33図

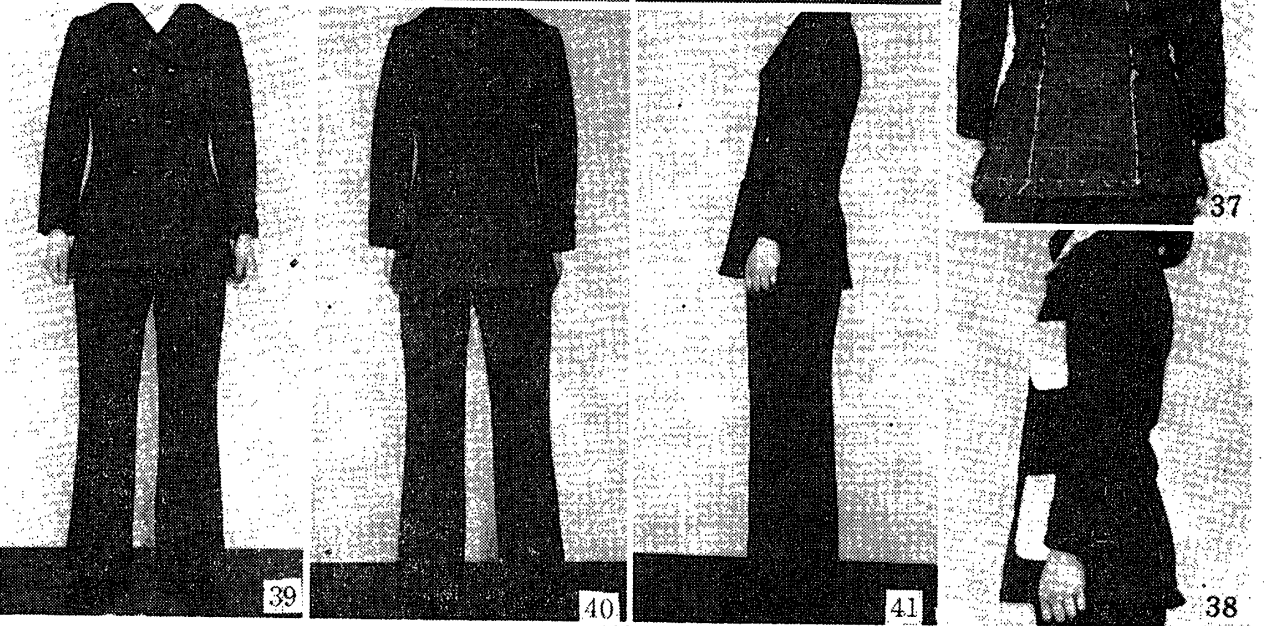
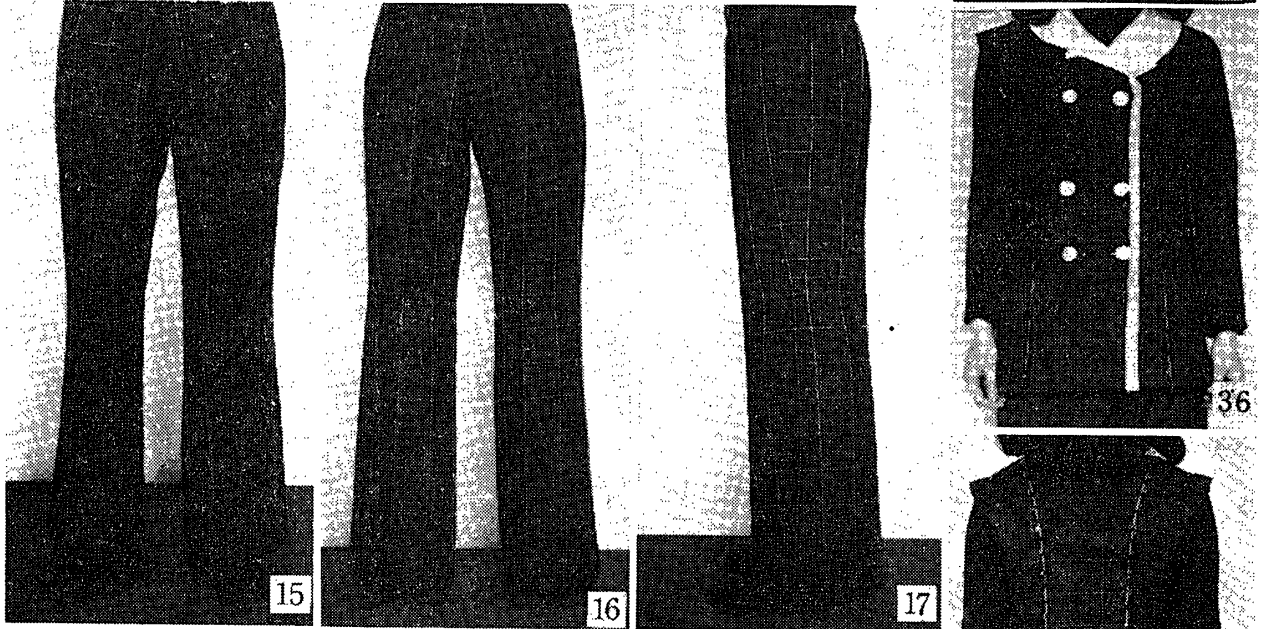
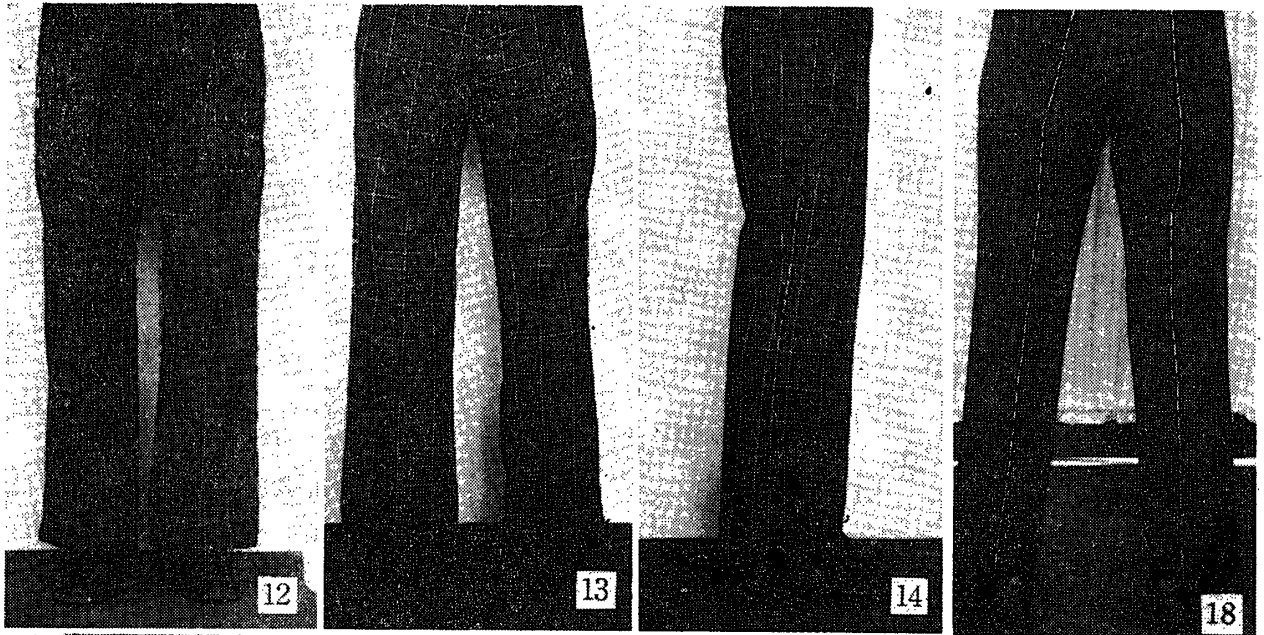
したテーラードジャケットの仕立上りである。前者には体型にあわない横じわが沢山みられるが、後者はテーラードされ美しく構成されている。

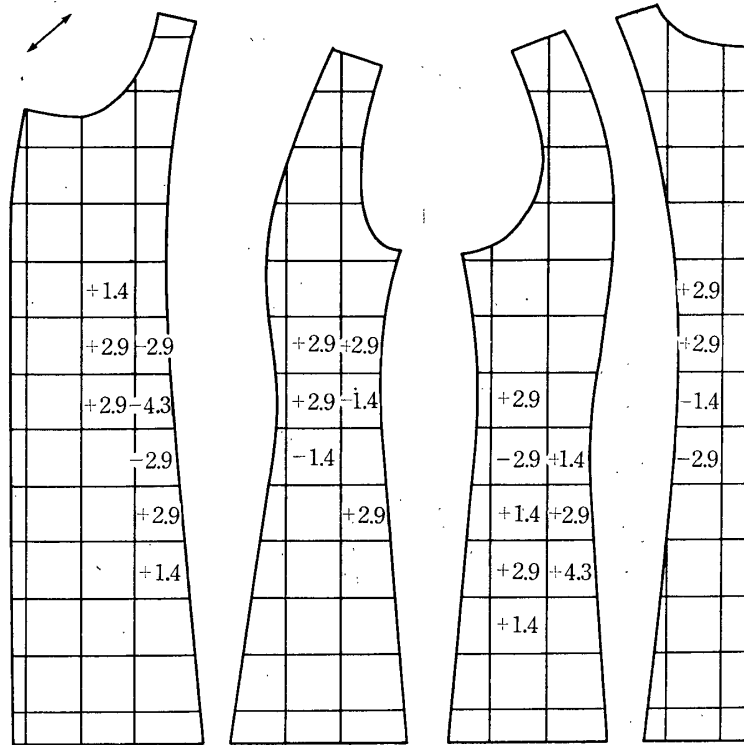
最後に構成されたテーラードスーツを着用して衣服と体型との関係をシルエットにより観察する。A布が体なりの線に綺麗に形づけられていること、衣服の運動量などをみることが出来た。(42図)



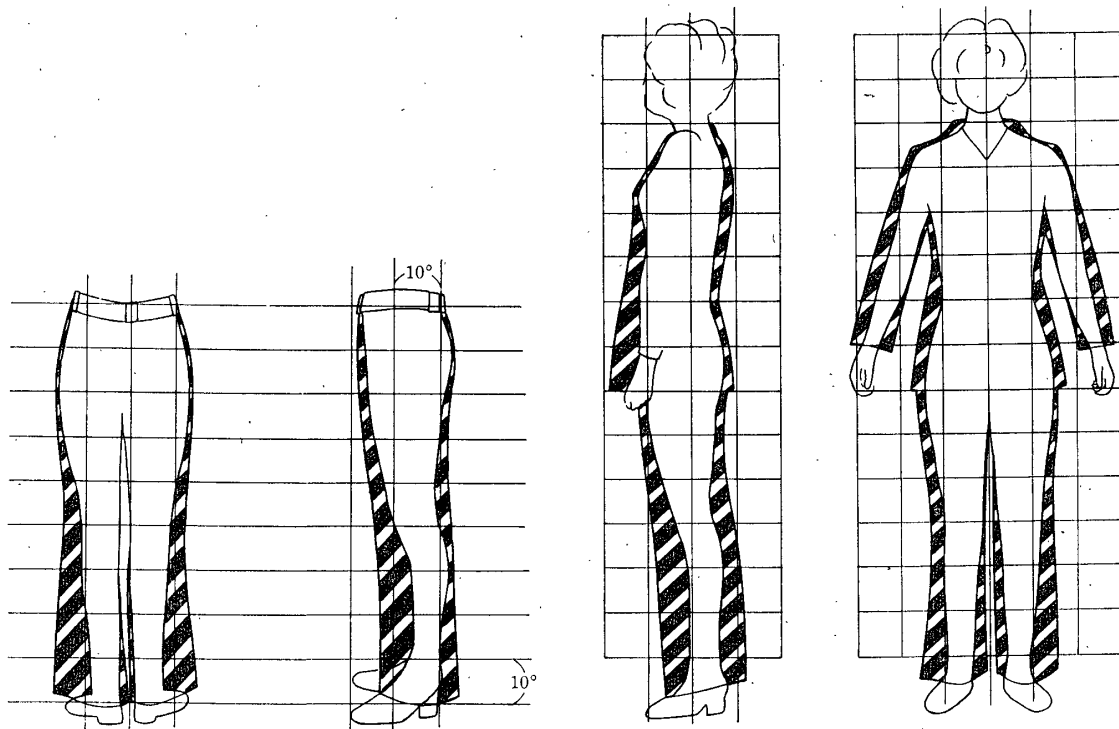
第34図







第35図



第42図 シルエットによる体型と被服との関係

#### IV おわりに

“くせとり”はテーラード仕立ての基本になるものであるが、これは素材とか体型各部の曲率等の違いによって左右される。A布で作成されたパンツロンがB布のものより体型に合った

線に美しくテーラードされたということは伸度の高い布腰の強い布ほど伸しについての問題は少ないが伸度の低い素材の場合は、体型の構造、運動量と輪郭に現われる形などから考慮された裁断上の工夫が必要になってくる。

尚実験の結果霧を吹き、アイロンによって伸ばされたパンタロンの股下の布はクリーニングした場合多少の変化はあっても、もとは戻らないことがわかった。

本研究では婦人服地として市販されている素材を試料としたが、紳士服地とか化繊地を試料として作成した場合、又曲率度の高い被験者を採用した場合には異なった結果が示されることと思う。

終りに本研にあたり御指導下さいました本学池永助教授に感謝の意を表します。

#### 参 考 文 献

- 1) 小倉・小堀：平安女学院紀要1, 1970, p.164.
- 2) 伊東茂平・伊東 孝：私の洋裁教室(下) 婦人画報社(昭和45) p.12.
- 3) 伊東茂平：私のきもの 47輯, 私のきもの社(昭和28) p.86.
- 4) 細野 久：マテリアル, デザイン, 裁縫文化出版社(昭和45) p.25.
- 5) 細野 久：体型, 補正, 裁断, 文化出版社(昭和46) p.180.
- 6) 文化服装講座：男子服, 文化出版社(昭和43) p.137.
- 7) シビライズファッションの秋 MCA S46. 10. 6.

(本報は昭和47年12月9日, 衣服学会47年度後期研究発表会において発表)